

北里柴三郎の歩んだ道（8）～文部省移管事件～

北里の伝染病研究所は、世界最新の免疫血清治療を実践し、極めて高い完治率を誇りました。そのため、全国から多くの感染症患者が伝染病院研究所に押し寄せました。日本政府は、目覚ましい治療実績を挙げる伝染病研究所のより一層の発展に向けて、1899(明治 32)年に伝染病研究所を私立から国立に移管させました。伝染病研究所は、北里を所長に置いたまま、内務省が所管する国立の研究機関に移行しました。そもそも福沢諭吉が北里に研究の場を提供するために創始し、1892(明治 25)年に大日本私立衛生会の附属機関として発足した伝染病研究所でしたが、当初は伝染病の病原菌の探索や治療方法の研究が主な業務でした。その後、1894(明治 27)年に芝区芝公園から芝区愛宕町に移転し、それを機に国から補助金が支給されるようになると、伝染病の探索や治療方法の研究の他に、免疫血清の製造や伝染病の予防・消毒・治療・材料の検査などの講習業務も担当するようになりました。

伝染病研究所が順調に発展していく一方で、内務省に移管されて2年後の1901(明治 34)年、北里に悲しい知らせが届きます。私財を投じて北里を支援し続けた最大の恩人の福沢が脳溢血を再発し、66歳で他界したのです。翌年には、常に北里の後援者であった長与専齋が、心臓弁膜症によって福沢を追うように急逝します。享年 64歳でした。恩人の福沢と後援者の長与を相次いで亡くして悲しみに暮れる北里でしたが、後年にはさらなる苦難が待っていました。

1902(明治 39)年、手狭になってきた愛宕町の伝染病研究所を、芝区白金台町1(現在の港区白金台4)に移転拡張することになりました。白金台の1万9,000坪余りの広大な敷地には、車寄せのある二階建て煉瓦造りの本館、その奥に病室、採菌室などの2号館が並び建ちました。この新築移転から8年後に、事件が起こります。1914(大正 3)年4月に第二次大隈内閣が誕生すると、そのわずか3ヶ月後に第一次世界大戦が勃発しました。大隈内閣は、この有事に乗じて、「文政統一、行政整理」という名目のもと、伝染病研究所の文部省への移管と、東京帝国大学への組み入れを計画しました。そして、伝染病研究所を創設以来22年もの長きにわたり牽引し続けてきた所長である北里に一言の相談もないまま、内務省所管から文部省に移管することを閣議決定してしまっただけです。もともと伝染病研究所は、福沢の土地や森村市左衛門の寄付など、北里の能力と熱意に感銘を受けた民間人による献身的な支援によって日本で最初に誕生した私設の研究所です。それが、文部省の所管となり、東京帝国大学医科大学の附属機関に組み入れられてしまうのですから、北里の驚きとショックは計り知れませんでした。



港区白金台4丁目に移転拡張された伝染病研究所(現東京大学医科学研究所)
【提供】学校法人北里研究所
北里柴三郎記念室

伝染病研究所の文部省移管は、医学会を二分する大事件となりました。この頃の北里は、全国の医師会の主導的役割を担い、多くの医師の支持を集めるとともに、政友会(総裁・原敬)と近い間柄にありました。そのため、「大隈首相が、最大野党である政友会の支持基盤の弱体化を謀る目的で、伝染病研究所から北里所長を追い落としたのではないか」「東京帝国大学医科大学青山学長の策謀に手を貸したのではないか」と国民から非難の声が上がるほどでした。このあまりにも横暴なやり方に北里は納得できず、研究所を辞職しました。北里、61歳の時の出来事でした。

伝染病研究所の文部省移管は、医学会を二分する大事件となりました。この頃の北里は、全国の医師会の主導的役割を担い、多くの医師の支持を集めるとともに、政友会(総裁・原敬)と近い間柄にありました。そのため、「大隈首相が、最大野党である政友会の支持基盤の弱体化を謀る目的で、伝染病研究所から北里所長を追い落としたのではないか」「東京帝国大学医科大学青山学長の策謀に手を貸したのではないか」と国民から非難の声が上がるほどでした。このあまりにも横暴なやり方に北里は納得できず、研究所を辞職しました。北里、61歳の時の出来事でした。

北里が辞表を提出した翌日には、北里を慕い続けてきた所員一同も辞意を表明します。北里の退所によって、伝染病研究所はその歴史に幕を閉じるかのように思われました。しかし、思わぬところから救世主が現れます。それは、養生園の事務長をしている田端重晟という人でした。田端は、養生園の運営によって30万円(現在の約30億円に相当)ほどの資金があることを北里に報告します。田端は亡き福沢が推薦した人物でした。世事に疎い学者集団を心配して、經理に強い田端を送り込んでいた福沢の心遣いが、伝染病研究所の窮地を救ったのです。田端が蓄えていた資金をもとに、北里は、土筆ヶ岡養生園に隣接する芝区白金三光町(現在の港区白金 5-9-1)におよそ2,500坪の土地を得て、北里研究所を設立しました。北里の師のロ



白金三光町に創設された北里研究所
【提供】学校法人北里研究所
北里柴三郎記念室

ベルト・コッホの誕生日に当たる1915(大正 4)年12月11日、開所式が盛大に挙行されました。開所後、田端による奇跡的な財源確保や、北里の個人名義の資産の取り崩しが明らかになります。すると、多くの国民から、政府に理不尽な仕打ちを受けた北里への同情の声が上がり、多額の募金が寄せられたのです。

